第四十六日目

師　範：フランス革命は１７８９年に始まり，１７９９年まで続きました。
この間にフランスは周辺の諸国から攻撃を受けました。
革命が広まって王政がひっくり返るのを恐れた国々からの干渉でした。

国内では議会が王政を廃止し，ルイ１６世は処刑されました。
そして混乱の中にナポレオンが登場します。
１７９９年にナポレオンが英雄のように迎えられ，権力をにぎりました。
人権宣言では具体化されていなかったところを，ナポレオン法典として公布しました。法の下の平等，個人の自由，私的所有権の尊重などです。
１５年間を支配したナポレオン時代。大陸諸国を攻め入って革命の息吹を吹き込んだが，独裁者という顔ももっていた。

１８０４年　ナポレオンが皇帝となる。

この年を覚えておきましょう。

コン太：これはどうでしょうか。

「皇帝と長く言われよナポレオン」

「い」は１，「わ」は８，「れ」は０，「よ」は４です。

ペン太：では

「皇帝の一夜を喜ぶナポレオン」

「いち」は１，「や」は８，「を」は０，「よ（ろこぶ）」は４です。

師　範：両方ともナポレオンの気持ちをうまく読んでいますね。
ベートーベンはフランス革命の共和主義の精神に深く賛同していました。
ナポレオンは，それをおしすすめる英雄として見られていました。
そのナポレオンをたたえてベートーベンは高まる気持ちで曲をつくりました。
しかしながら，ナポレオンが皇帝になったと聞いて，完成したばかりの楽譜に「ボナパルト」と書き込まれた表紙を破いて捨てました。
「ボナパルト」はナポレオンの名の一部でした。
さいわい楽譜は残り，交響曲「英雄」（エロイカ）として親しまれています。